

〔令和元年5月〕

平成30年度 福島学院大学 事業報告

平成30年度入学生数と在 student 数(平成30年5月1日現在)

学部	30年度 入学定員	30年度 入学者数	30年度 在 student 数
福祉学部・大学院	124名	97名	355名
短期大学部	260名	189名	407名
合計	384名	286名	762名

平成30年度 福島学院大学 教職員数及び役員・評議員数
(平成30年5月1日現在)

職種	30年度人数
専任教員	59名
専任職員	35名
特別職員	12名
派遣職員	5名
小計	111名
役員	12名(理事10名、監事2名)
評議員	21名

1. 中期計画3年目の取組

平成30年度は中期計画策定から3年目の年として、過去2年間の継続した課題であった学生数の回復を図ることを目的として、前年度に引き続き運営を行った。

過去2年間の経過を見ると学生数の回復傾向はあったものの、当初計画した学生数達成目標には至らず推移しており、見直しを速やかに進めるために教学、学生募集、経営基盤強化の3つのプロジェクトチームを構築し、それぞれのリーダーが中心となり、項目

ごとの内容見直しを試み、学生目標数の修正などに着手したものの、最終的に年度内の見直しには至らず、新年度への持ち越しとなった。今後は、31年度の新体制の中で課題を見直し、新たな中期計画として再構築することとした。

2. 教学の取り組み

教学については各学科を中心に様々な取り組みを行っている。

福祉学部福祉心理学科では新たな資格である公認心理師資格取得のためのサポートをはじめ、国家資格取得のための支援、こども学科は完成年度を迎えての卒論指導などを行った。

短期大学部においても保育学科では初めての高大連携実施、食物栄養学科では特別研究に取り入れた近隣市町村との地域連携事業、情報ビジネス学科でも特色ある地域連携事業など幅広く取り組みを行った。

30年度に実施した教学全体の取り組みの中で特筆すべきこととしては「新」授業アンケートの実施があげられる。

－ 新たな授業アンケートの導入 －

授業評価アンケートについては、前年度はスマートフォンを使用して学生全員に対してアンケートを行う方式を採用しており、結果は次年度の自己点検評価報告書において報告がなされていた。この方法は結果が次年度となり、結果が改善に反映できるまでに時間を要していた。



このことから平成30年度はスピード感ある授業改善を行うため、新たな授業アンケートのシステムを導入した。このアンケートは授業開始後にアンケートを実施し、各教員が独自に改善点を収集、改善を行い、その結果を速やかに現行の授業に反映させることとしている。

具体的には教員自ら学生の意見を聞くためのアンケート、教員の授業充実改善について学生から意見を収集するアンケート、そして授業の終了時に感動や感銘を受けた授業を取り上げたサンキューレポートの3つのアンケートを実施するものである。学生から出された改善意見については速やかな授業改善につなげ、その結果を学生にフィードバックすることができた。また、3回目に実施したサンキューレポートにも、学生が感動した科目など多くの意見が寄せられ、特に多くの好意的な意見が寄せられ

た教員は表彰実施規程により表彰を受けるなど、教員の授業に対する意欲向上の一助にもなっている。

3. 短期大学部 定員変更手続き実施など

短期大学部の定員振替

保育学科から情報ビジネス学科へ定員 20 名を振替

短期大学部の定員については、保育学科で入学定員 170 名（収容定員 340 名）、食物栄養学科入学定員 50 名（収容定員 100 名）、情報ビジネス学科が入学定員 40 名（収容定員 80 名）となっていた。ここ数年の情報ビジネス学科入学希望者数の回復状況が順調で定員を超える応募者がでてきていること、また、逆に保育学科においては定員充足率が低い水準で推移していた。このことから短大学科間で定員振替を行い、定員数の適正化を図るとともに、保育学科においては教員免許課程認定審査基準並びに指定保育士養成施設指定基準による教員数も 2 名減することができるため、教員補充の際の人事配置に余裕ができることとなる。

現状のニーズに合った定員構成とするのための手続きを行った。9 月に収容定員関係学則変更届出書を文部科学省宛に提出した。

併せて保育学科に係る指定保育士養成施設記載事項変更申請書を福島県宛に提出し、10 月 30 日付で承認を受けている。



専攻科保育専攻第二部の廃止

保育専攻第二部は昭和 48 年の専攻科保育専攻開設後、昭和 50 年に保育専攻第二部として設置の届出がなされたものであるが、平成 18 年度に音楽療法を中心とした教育課程に改正し、今日に至っている。同専攻は現在までに延べ 103 名の修了生を送り出しているが、母体となる保育科第一部・第二部（現保育学科）の学生減少を受けて平成 28 年度以降、学生募集を停止している。今般、福祉学部こども学科において、31 年度より「音楽療法士認定課程」を策定し、専攻科の科目を移行して開設することとなったため、10 月に廃止にかかる学則変更届を文部科学省宛に提出し、平成 31 年 3 月 31 日付で廃止とした。

4. 各種調査等の対応

日本私立学校振興・共済事業団の経常費補助金事前調査

平成31年2月21日実施

会計検査院実地検査が行われる前に、検査の可能性が高い方面の数か所の法人に対して、補助金が要項に基づき、適正に申請されているかを日本私立学校振興・共済事業団（以下、事業団）が事前に確認し、必要に応じた指導を行うもので、前回は平成18年度に調査を受けている。

事業団からは3名が来学し、一般補助、震災復興特別補助、経営強化集中支援特別補助など多岐に亘り調査が行われた。調査の結果、資料等が不備なく整っており、担当職員の説明も要を得ていたことなどもあり、良好な結果で終了することができた。

食物栄養学科 東北厚生局養成施設指導調査

平成30年11月30日実施

栄養士養成施設の指導調査が行われた。事前に担当者で準備を行い、書類の確認や施設設備の基準チェックなどを行い、調査に備えた。当日は東北厚生局健康福祉部・保健福祉部担当者4名が来学し、調査が実施された。給食管理実習施設の現場確認や、書類審査として教員の資格要件、担当授業の状況などの確認が行われた。調査の結果、専任教員の担当分野における業績確認が調査終了後も継続したが、都度適切な回答を行ったこともあり、12月26日付の東北厚生局文書において「文書をもって指導する事項なし」との良好な結果を得ることができた。

5. 国際理解事業

平成30年度の国際理解事業は「シンガポール研修」について、安全面、経費面を考慮したうえで最少催行人数に達したため、以下のとおり実施した。なお、もう一つ予定していた「インドネシア バリ島研修」については、イスラム過激派組織の影響による国際情勢の影響もあり、最少催行人数に至らなかったため、実施を見送った。

海外研修

国際理解演習【全学科対象】

（2単位取得可）

場 所 シンガポール

時 期 平成31年2月24日～3月1日（6日間）

引率者 中丸一志教授、オカンボ・メリッサ講師

参加学生 9名（情報ビジネス学科5名 保育学科2名 食物栄養学科2名）

昨年度に引き続き研修を行ったシンガポールは、アジア諸国のなかでも比較的治安の良い安全な国であり、旅費も比較的安価である。そして、近年のアジアのビジネス拠点となっている国際色豊かな他民族国家である。その中でビジネスの展開、ホスピタリティ、クリエイティブな感性を現地で学ぶこと、2020年の東京オリンピックを視野に入れたホスピタリティと今後の地域活性化の一因となるインバウンドの在り方を学ぶこと、集団行動に関する知識やマナーの習得を目的として研修を行った。

水のない国シンガポールの高度な雨水や下水の浄化施設視察のほか、訪問した会社の若手社員の方との懇談会も行い、海外で働くことの魅力、働く際に必要なスキルなど、貴重な現場の声を伺うことができた。また、自主研修においては学生それぞれのテーマに基づき、地下鉄などの現地交通機関を使い、現地の異文化を学び、大変有意義な研修とすることができた。また、参加した保育学科学生にも対応した現地幼稚園視察も視察し、子供たちとの交流を深めることができた。



6. 菅野八千代先生記念教育充実資金

夢のある教育の一環として実施してきた創設者である故菅野八千代先生を記念して設けられた菅野八千代先生記念教育充実資金は、以下の事業に参加した学生に対して補助を行った。

▶ 特別クラブ振興補助金〔学院長室〕

本学YOSAKOIクラブは多数のイベントに積極的に参加しており、福島の夏祭りメインイベントであるわらじまつりでは平成21年から24年、26年に最高賞であるグランプリ受賞、平成27年度に準グランプリ、平成30年度は福島商工会議所青年部賞を受賞、茨城県で行われた「常陸国YOSAKOI祭り」では準グランプリを受賞するなど、地元を中心に幅広く存在感を示している。

本学大学祭や学位授与式などの主な行事においても見る人に感動を与え、本学のPR効果も高めている。一方で衣装代や県内外各地のよさこい大会への参加による移動費など、多額のクラブ活動費がかかることから、活動の実績を考慮し、衣装費、イベント参加費等の補助として100万円の補助を行った。



7. 入学式及び学位授与式の挙行

入学式

平成30年度入学式は、4月7日、福島市音楽堂において挙行し、大学99名（大学院含む）、短期大学部189名の入学生を迎えた。式典終了後の行われた本学の特色のひとつである祝典コンサートは本学ミハウ教授によるパイプオルガンの演奏に始まり、続いてドラム、ギターの協奏、学生及び教職員による歌と踊りなど、本学の特徴であるコンサート形式のプログラムで8曲が披露され、新しい年度のスタートにふさわしい華やかな演出は新入生に本学の特色が感じてもらえるステージであった。



学位授与式

平成31年3月15日、福島市音楽堂において、大学75名（大学院含む）、短期大学部184名 合計259名が出席し、本学の特色の一つとなっている平成30年度学位授与式メモリアルコンサートが挙行された。

式典はプロデューサー兼総監督でもある長久保准教授の演出のもと、ミハウ教授のパイプオルガンに

よるプロローグ「トッカータとフーガ 二短調」に始まり、恒例となった音と光による“ツアラトゥストラはかく語りき”の演奏によるオープニング、式典終了後のメモリアルコンサートはミハウ教授のパイプオルガンによる「ドリームファンタジー」 教職員による歌「Sailing My Life」、バイオリン、ベース、ドラムの演奏による「You Raise Me Up」、学生による歌とダンスで構成した「女の子は誰でも」、ジャギークラブ学生のダンスパフォーマンスによる「ジャギーNew World メドレー」などが続き、フィナーレは恒例となった学友会学生による第二校歌で卒業生それぞれの夢に向かっての新たな旅立ちにエールを送った。



8. 大学祭(第52回のぎく祭) 10月14日

テーマ「Canvas ～ 僕らで描く1ページ ～ 」

第52回目となった「のぎく祭」は、約3000人の来場者で賑わった。

各学科の学生が、それぞれの特色を出した大人も子どもも楽しめる多彩なイベントを準備し、大学提供の地域密着を図る催しとして継続して実施している卸売市場の青果販売、模擬せりなども大変好評であった。恒例のポピュラーソングコンテスト、ミス・ミスター福島学院コンテストなども行われ、多くの来場者の注目



を集め、シールラリーのお餅提供などは昨年度に引き続き長蛇の列をみせる賑わいとなった。大学提供の地域密着を図るイベントとして、川俣町山木屋太鼓の演奏、キッチンカーによるクレープ、焼き鳥の出店、大道芸パフォーマンス、お笑い芸人による爆笑ライブなどの企画も来場者から大好評であった。

同窓会の企画ではミニコンサート、リース作り教室などの企画も好評で賑わいを見せていた。

9. 地域社会との連携及び貢献事業

地域に根差した教育機関としての役割を果たすため、福島駅前キャンパス、宮代キャンパスそれぞれにおいて以下の地域貢献事業を行った。

◆ 自治体、地元企業等との連携事業 ◆

➤ 福島市産学官連携プラットフォーム事業

福島市内全大学（福島学院大学及び短期大学部、桜の聖母短期大学、福島大学、福島県立医科大学）、福島商工会議所、県中小企業家同友会福島地区、そして福島市と、産学官連携プラットフォームの協定を結んだ。それぞれの機関が協力し合い、福島の若者の地域定着、活性化などの課題解決を目的にしたものである。具体的には保育士不足の解消に向けた調査研究として「保育士キャリア形成」、若者を対象としたキャリアアップ対策として「人材育成及び地域活性化」の2つのプロジェクトにおいて本学が中心となって取り組みを行っている。



る。

➤ 福島県立医科大学との共同公開講座

本学と県立医科大学が連携して双方の専門分野の特性を生かした公開講座を実施した。

- 「認知症を理解しよう」(6月・本学担当者 福祉心理学科 遠藤寿海教授)
- 「不登校・社会的引きこもり～原因と対処について～」(7月・本学担当者 こども学科 佐藤佑貴准教授)
- 「知ろう！学ぼう！ 薬だけに頼らない高血圧治療」(8月・本学担当者

食物栄養学科 佐藤る美子講師)

- 「どうして怖いのか？ 糖尿病」(9月・本学担当者 食物栄養学科 佐藤る美子講師)

➤ **伊達市との相互協力に関する協定締結**

28年7月に連携協定を締結した伊達市との活動状況については、情報ビジネス学科を中心に「空き店舗を活用したまちなか賑わい創出の調査研究」(2年目)としてワインに関するイベント企画を実施した。

➤ **土湯温泉協会との連携協定**

福島県の風評被害対策事業の一環として、29年度に連携協定を締結した土湯温泉観光協会との事業については、土湯温泉「ぶらっと温泉バル」企画運営協力、「観光PR動画」企画協力、「ざぶとんシンポジウム」運営協力を行った。



➤ **株式会社福島民報社との連携協力協定**

29年度に連携協定を締結している福島民報社との活動は、29年度に実施したFD・SD研修で取り上げた地域連携のテーマのなかで挙げられた意見をもとに、30年4月より福島学院大学「地域と家庭のオピニオンズ」として身近な社会問題についての学生の意見を福島民報紙面に掲載することとなった。

毎月第3週の木曜日、福島民報新聞に学生の取り組みが紹介され、授業で学んだ待機児童の問題や子どもの発達などのテーマで情報発信を行い、地域での本学での役割をアピールすることができた。

その他、30年度における主な地域連携事業は以下のとおりである。これらの事業は教育的効果としてアクティブラーニングにつながるものである。

➤ **情報ビジネス学科を中心とした地域連携事業**

- 福島民友社主催いいね！ARAKAWAプロジェクト

福島市内の「荒川」の治水の歴史や周辺の植生などを学び、その魅力を発信する手法を学ぶため、学生のフィールドワーク、昨年度提案した「ダムカレー」の商品化に向けた試食会などを実施

- 阿武隈急行線 利活用促進プロジェクト
阿武隈急行 30 周年を記念したイメージキャラクターの提案、クラウドファンディングによる沿線活性化イベント「はちみつビール」のプロデュースなどを実施



- 食物栄養学科で取り組んだ地域連携事業
 - チャレンジふくしま（健康増進ためのレシピ開発、啓蒙リーフレット作成）
 - 土湯ぶらっと 温泉バル（土湯温泉の源泉卵を使ったレシピ開発）
 - りょうぜん里山学校における産品料理の開発、道の駅での商品開発協力など

◆ 福島駅前キャンパス ◆

充実した公開授業、公開講座の実施

人材寄附講座

地元企業や官公庁と連携し、各方面のスペシャリストを派遣してもらい実施する「人材寄附講座」については28年度から2年間休止していたが、地域からの再開要望もあり、地域貢献の意味からも30年度より再開することとした。30年度は6つのテーマで実施し、601名が受講した。



実施した講座

福島県（117名）、福島民報社（96名）、福島民友新聞社（93名）、福島県立医科大学（104名）、飯坂温泉・高湯温泉・土湯温泉・福島「農」を考える会（105名）、福島県理容生活衛生同業組合（86名）

公開授業（無料）

福島駅前キャンパスで実施される福祉学部、情報ビジネス学科の講義科目授業について、市民、県民及び本学学生の保護者には無料で聴講できる制度を設けている。平成30年度については福祉心理学科 前期40名、後期36名、情報ビジネス学科については前期6名、後期5名が受講した。

地域活性化に向けた取組の推進と施設貸与による地域活動支援

① 地域活動への積極参加

中心市街地では、活性化に向けて行われている「七夕まつり」、「わらじまつり」、「稲荷神社例大祭」などに学生が積極的に参加しており、地域の方との交流を深めることができた。また、七夕まつりにおいては学生が福島商工会議所青年部賞を受賞した。

② 施設貸与事業（駅前キャンパス）

施設貸与事業は原則有料で地域活動をする様々な団体に休日や授業のない教室等を貸与し、地域活動支援を行った。30年度の状況は以下のとおりである。

【平成30年度の駅前キャンパス施設貸与状況】

福島市役所、(財)日本語国際支援教育協会、銀行業務検定協会、福島民友社、福島リビング新聞、福島新教育研究会、(株)イーブレイン、KATEKYO グループ学院福島、さくらゼミ、JTB東北、近畿日本ツーリスト、一般社団法人リエゾン、公益信託うつくしま基金、NPO法人福島青年管弦楽団など全86件（*収入 2,682千円）

◆ 宮代キャンパス ◆

① 教員免許状更新講習

平成21年の改正免許法施行による免許更新制導入から10回目となる「教員免許状更新講習」は、大変好評な事業であり、30年度も募集定員を大きく超える受講希望者があった。当初定員を50名で開始したが、受講希望者の要望に応え、27年度に定員を50名から100名、29年度は更に20名増、そして30年度は更に4名増の124名で実施している。受講者は卒業生が多く訪れ、整備されたキャンパスの素晴らしさに感嘆の声が上がっていた。

実施日程

- 必須領域（2日間）7月28日、30日
- 選択領域（3日間）8月8日、9日、10日

② かぼちゃランタン祭の開催

28年度より実施しており、地域より好評を博しているハロウィンのイベントである「かぼちゃランタン祭」を10月27日に宮代キャンパスにて実施した。当日は県北地方で収穫した本物のかぼちゃを使用したかぼちゃランタン作り教室を実施し、100名の参加者があった。また、仮装した子供たちが構



内をまわり、お菓子をもらう企画（トリック オア トリート）も実施した。参加した子供たちは242名の参加となった。ハロウィンにふさわしい楽しい仮装等もあり、会場は大いに盛り上がった。

③ 施設貸与事業（宮代キャンパス）

緑が多く広い敷地と瀟洒な校舎が立ち並ぶ宮代キャンパスでは、カーサ・フローラや体育館、本館等教室について、環境の良さを活かして、福島県保育者養成校連絡会、福島市私立幼稚園協会、福島民報社など13団体の施設貸与を行い、2400人を超える受入れを行った。その他、認定こども園も含めて年間の貸与件数は156件となっている。

10. 施設設備の補修・補充とキャンパス整備

30年度は千葉ホールの照明設備入替、駅前キャンパス非常照明修繕工事などを実施した。主な支出については以下のとおりである。

施設設備・補修関係

◆ 千葉ホール照明設備改修・プロジェクター入替 19,980千円

千葉ホールの照明設備については創作ミュージカル等授業や各種発表会、教職員新年度初顔合わせ会、認定こども園行事など多岐に亘り使用してきているが、設置後25年を経過しており、不具合が多く発生し、修理対応も不可能であることから、入替改修工事を行った。

◆ **福島駅前キャンパス非常照明修繕工事 3,672千円**

福島駅前キャンパスの特殊建物等の定期検査を実施した結果、設置後 12 年が経過していることもあり、非常照明の不点灯箇所が多くあったため、該当箇所の修繕工事を実施した。

◆ **図書館情報センター菅野記念館エアコン設備改修工事 1,836千円**

図書館情報センターは設置から 30 年が以上経過し、菅野記念館エアコン設備について経年劣化による不具合が発生したため、改修工事を行った。

◆ **福島駅前キャンパス1階東側風除室内床タイル貼り替え工事 1,188千円**

福島駅前キャンパス1階東側風除室（パセオ側）の内床タイルは南側壁面側を主として剥離・隆起したことから、全面貼り替え工事を実施した。

その他

◆ **学生食堂への運営補助 3,000千円**

宮代キャンパス内のぎく館で運営する学生食堂（外部委託：株式会社ミスタースタミナ）については、駅前キャンパスと学生が二分化していることもあり、学生数減少により経営的に厳しい状況となっている。学生食堂があることは大学の魅力のひとつでもあり、利用学生・教職員の利便性を考慮し、運営維持のため管理運営費の補助を行った。

11. 就職状況

こども学科第1期生が大健闘。短期大学部は就職率 100%を達成！

平成30年度の就職状況については、100%の就職率の達成はもちろん、学生の満足度の高い就職を目標に掲げ、支援を行った。結果として求人件数は福祉学部 2331 件（前年 2257 件 ※前年度比 103.3%）、短期大学部 2203 件（前年 2234 件 ※前年比 98.6%）となった。

また、就職率としては、大学院 75%、福祉学部 93.3%（福祉心理学科 88.9%、こども学科 100%）、短期大学部は全学部とも 100%を達成した。

各学部学科の職種別就職状況

● 福祉学部

- 福祉心理学科は、就職者の 4 割弱が社会福祉士・生活相談員、精神保健福祉士、介護職、保育教諭、幼稚園教諭など専門職として就職。就職者における福島県内就職者の割合は 73.2%であった。

- 一期生を輩出したこども学科は就職者の87.5%が取得資格を生かして幼稚園教諭・保育教諭・保育士など専門職に就職。そのうち、4人に1人が公務員として公立の幼稚園・保育園等に就職した。



● 短期大学部

- 保育学科は就職者の93.0%が取得資格を生かして幼稚園教諭・保育教諭・保育士として就職。うち、公務員として4人が効率的な保育園に就職している。福島県内就職者割合は71.3%であった。
- 食物栄養学科は、就職者の85.0%が栄養士や食品に関する知識を生かした専門職として就職。福島県内就職者割合は50%であった。
- 情報ビジネス学科は小売業、製造業、医療事務、情報通信業他幅広い分野に就職。福島県内就職者割合は89.2%であった。

令和元年5月1日現在の就職率及び進学者数(参考)

大学

学 科 (福祉学部・大学院)	就職希望者	就職者	就職率	進学者	昨年 就職率
福祉学部福祉心理学科	36名	32名	88.9%	6名	100%
福祉学部こども学科	24名	24名	100.0%	—	—
福祉学部 計	60名	56名	93.3%		
大学院 心理学研究科	4名	3名	75.0%	1名	100%

学 科 (短期大学部)	就職希望者	就職者	就職率	進学者	昨年 就職率
保育学科	115名	115名	100.0%	2名	95.6%
食物栄養学科	20名	20名	100.0%	1名	100%
情報ビジネス学科	37名	37名	100.0%	5名	100%
短期大学部 計	172名	172名	100.0%	8名	97.6%

- ※ 進学者等内訳：大学院心理学研究科臨床心理学専攻5名、仙台大原簿記情報公務員専門学校1名（福祉心理学科より）、福島学院大学福祉学部福祉心理学科1名、短期大学部食物栄養学科1名（保育学科より）、仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科1名（食物栄養学科より）、東京情報大学総合情報学部総合情報学科1名、国学院大学栃木短期大学人間教育学科1名、福島学院大学短期大学部情報ビジネス学科 e ビジネス研究センター2名、ニュージーランド ワーキングホリデー1名（情報ビジネス学科より）

➡ 宮代・福島駅前キャリア支援室での就職対策

就職の担当課であるキャリア支援室は学科の特徴に合わせ、宮代、駅前それぞれのキャンパスでの学生が主体的に行動できるよう支援体制をとった。学内における就職対策の基本方針としては、学生が早めに就職活動を進められるよう効果的な情報提供を行い、各学科教員の実習訪問に伴う求人開拓の協力を得ながらハローワークとの連携も密にして学生の希望に合った求人獲得と求人情報の収集に努めた。

また、平成26年度から実施している「卒業後の状況調査」も継続実施し、卒業生の就職する企業に直接訪問して状況把握等を行った。例年行っているご家族対象就職説明会は福祉学部3年次生、短期大学部1年次生（保育科二部は2年次生）の保護者を対象として開催した。学生・保護者・本学教職員が三位一体となって円滑な就職活動を進められるよう努力した。その他、次の就職対策事業を行った。

学生の就職対策

- 就職オリエンテーション
- 公務員試験対策ガイダンス・試験対策講座・試験対策模擬試験
- 就職適性検査・就職模擬試験
- 基礎学力養成講座
- ビデオ活用による面接指導
- クラスセミナーを活用した就職指導
- 学内企業説明会
- 私立幼稚園教諭就職セミナー
- 福島県社会福祉協議会「福祉の仕事就職説明会」

その他、初の試みとして福島市私立幼稚園協会が主催する「合同就職説明会」を開催

なお、31年度のキャリア支援については、事務局組織再編のため、学生課とキャリア支援室を統合し、学生支援課として運営することから、各学科にキャリア支援担当者において支援体制の見直しを図ることとなった。

12. FD・SD 研修(教職員合同研修)

本学の教育理念・教育目的に基づき教育の内容及び方法の改善・向上、管理運営や教育研究支援に関わる職員の資質向上を図ることを目的として研修計画を策定し、教職員全員参加でのFD・SD研修を3回実施した。

平成30年度の全体研修第1回と第2回では、人間関係が希薄になっている現代社会の中で非常に重要視されている学生とのコミュニケーションの取り方について、学生と

教員間のさらなる信頼関係を構築できるよう、教員の指導力・教育力向上に繋げられる内容としてテーマを取り上げた。

第1回目：8月29日実施

テーマ： 「学生とのコミュニケーションスキル向上のために」

講師： 大島 武 氏（東京工芸大学
芸術学部 教授） 71名参加

外部講師を招き、現在の学生とのコミュニケーションの取り方など、ワークショップなども盛り込み、講話をいただいた。



第2回目：9月18日実施

テーマ： 「若者文化と若者への理解を深める」

講師： 木村信綱 情報ビジネス学科長・准教授

1回目と連続したテーマを取り上げ、現代の若者と若者文化や、多様化する学生について理解を深め、学生とのより適切なコミュニケーションの取り方について研修を実施した。日々の授業において学生の可能性を引き出し、学習意欲を喚起する教育に活かすほか、面談や相談、実習指導等の学生対応、学生募集にも活かせる研修内容とした。



その他、3回に分けて希望者対象にコンピューターを利用した情報技術向上のための研修を実施した。

第3回目 1月8日実施

講師 菅野 英孝 学院長（全学授業改善委員会委員長）

梅宮 れいか 教授（自己点検・評価委員会委員長）

高等教育機関が置かれている現状と教育改革について詳細な説明があった。また、次年度に向けての重要事項である教員授業実施規程の改正点と31年度シラバス様式の変更に伴う作成上の留意点等について確認し、理解を深める研修であった。

全体SD研修については、経営財務の把握分析、大学改革の現状と今後の方向性、昨年度に引き続き階層別研修として管理職者研修、業務マニュアル作成、ビジネスマナー、経

理事務などの内容で年間 10 回実施した。加えて、私立大学協会事務研修会の参加者からの報告も行った。

また、新たな試みとして、授業見学研修を取り入れた。職員が本学の授業内容や学生の状況を知り、本学の教育に理解を深めることで、そこでの気付きや発見から今後の業務に活かしていくことや、入学希望者や在学生への説明にも役立てていくことを目的とした。受講した職員からは新たな発見があり、今後の業務にあたって大変有意義であった旨の回答が多くあがっていた。

自己啓発研修としては、大学職員向け図書等を読み、自分の業務にどうつなげていくのかをまとめた報告書提出、外部研修に参加した際の研修成果、業務へのフィードバックとしての報告書提出、本学の理解を深めるため「本学の教育」の授業出席などを行った。

その他、10月に群馬県の高崎商科大学からSD研修の一環としての視察訪問の依頼があり、対応を行った。本学としても共同SDの一環として、教務事務やキャリア支援、オープンキャンパスの運営や総務、経理事務など情報交換をすることができた。先方の職員からは本学の施設が整っており大変環境が良いことや、地域連携の状況など、大変すばらしいとの話をいただいた。

平成30年度 福島学院大学認定こども園事業報告

1、幼保連携型認定こども園としての教育・保育充実



本園は教育基本法および学校教育法並びに認定こども園法、児童福祉法にもとづき、乳幼児を教育・保育し、その健全なる心身の発達を図り、情操豊かな幼児に育成することを目的として、認定こども園開園より園則に掲げて運営を行ってきた。

平成30年度は「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」第10条第1項に規定された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改正され、4月1日施行となったことから、幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化を図り、本園として0歳から5歳児まで一貫した教育・保育を推進するという点を最大の目標とした。

また、特別な配慮を必要とする園児への指導の充実、多様な生活形態の保護者が在園していることへの配慮、子育て支援等に関する内容の充実、そして保育教諭同士の連携、安全面や健康面に配慮した保育環境の整備である。試行錯誤を繰り返しながらではあったが、本園行事の中でも特に大きな「なつまつり」「ファミリー・プレー・デー（運動会）」「キディ・プレー・デー（発表会）」「卒園式」を含む行事において綿密な計画を具体化することができ、達成できたと考える。



2、保育教諭配置と発達障害児サポート体制

(1) クラス主担当の補佐・発達障害児へのサポート体制の強化

0～満3歳児クラスで構成される乳児クラスにおいては、適切なフリーの保育教諭を配置することにより、ゆとりを持った保育を実現することができた。また、3～5歳児クラスの幼児クラスでは、集団生活において問題行動が見られる子（発達障害児・気になる子等）に対してのフリー嘱託保育教諭を配置する等してサポート体制を確立することができた。クラス主担当の補佐が十分にできたと言える。そして今後も引き続き、効果的な人員配置を目指す基礎となった。

(2) 園児の体調不良・怪我・健康管理を担当する看護師の配置

乳幼児の健康管理・感染予防・突然の体調不良や怪我の処置・アレルギー対象児への対応（アナフィラキシー対応）等、保護者に安心感を与えることができるように看護師を配置した。このことにより、医療機関につながるための確実な対応と体制が確立され、怪我や体調不良が発生した際も安心感を持って教育・保育を展開することができるようになった。

(3) 相談支援の強化と関係機関との連携（心理臨床相談センター・子育て支援センターとの連携）

平成30年度はクラス担当に寄せられた相談を園長が引継ぎ、合計3名の園児を駅前キャンパス心理臨床相談センターへ送り出すことができた。

3、子育て支援事業「うさぎさんクラブ」の充実

(1) 「うさぎさんクラブ」の内容充実

平成30年度は「園庭開放」「室内遊び場開放」「相談支援・園見学」に加え、うさぎさんクラブイベント（特別講座）の実施をした。楽器遊び・子育て講演会など、今まさに子育て中の保護者・近隣の保護者のニーズに応える形となり、充実したクラブイベントを実施することができた。この取り組みは近隣の幼稚園・保育園へも案内を拡大し取り組むことができる内容となった。

＜平成30年度子育て支援園庭開放・遊戯室開放利用のべ人数＞

園庭開放・遊戯室開放・施設見学・入園相談	260名
うさぎさんクラブ（特別講座・クラブイベント）4回実施	177名

(2)子育て支援の広報(パンフレット作製)

これまで手作りのパンフレットを作成して配布していたものを内容含めて改訂した。見学に来た未就園の乳幼児にも内容が伝わるような具体的な保育の様子や行事など具体化した内容を盛り込み本園の情報が広く伝わるようにしたことに加え、ホームページも、子育て支援の中身が分かるように変更した。



4、自己点検・評価への取り組み

認定こども園園則第30条の自己点検・自己評価について「本園は適宜、自己点検・評価を実施する。」と定められていることから、平成30年度中に自己点検・評価に関する規程を整備し実施した。

評価シートは10の大項目・29の細部にわたる小項目によって具体的な取り組みの評価をする仕組みとし、本園に勤務するすべての教職員を対象として5段階評価を実施した。園長が取りまとめたところ、全項目の平均指数は5段階評価中で4.0という結果であり、次年度へ活かす材料となった。特に、保育教諭の育成に係る部分として園内・園外研修機会の充実について見直し、絶えず学び続けることのできる環境を目指す土台作りが必要であることが分かり、一方で保育教諭へのケアや配慮については効果が見られたことが分かった。

5、大学との連携・実習生の受け入れ

(1)高大連携授業への取り組み

福島東陵高校高校の在學生に保育に対する意欲を高めてもらうと共に、大学生が後進を指導することで卒業後のキャリアにつなげることを目的とした高大連携事業の一環として、佐藤敦子教授（本園園長）の模擬授業に本園の4・5歳児40名が参加した。踊りでの交流の後、トーンチャイムとハンドベルのセッションをするなど、普段は経験することのできない機会となった。また、この取り組みは学生募集の一助にも繋がったようである。



(2)基本実習生の受け入れ(短期大学部保育学科・福祉学部こども学科学生)

基本実習として短期大学部保育学科・福祉学部こども学科の実習生を打ち合わせの上で予定通り受け入れた。観察だけではなく、保育に係る事前準備や環境構成を保育教諭と共に実際に体験することで学び、保育現場で問われる教諭・保育士・保育教諭の行う保育付随業務の在り方についても伝えることができた。また、講話をとおして、保育者としての心構えなどを学ぶことができる時間とした。学生からの本園への評価も高いとの報告を保育学科から受けた。



6、保育教諭の育成

幼保連携型認定こども園として、教諭自身が常に学び続ける姿勢を持ち、子どもたちの感性や情操の育成、保育者自身の真剣に学ぶ姿勢を常に持つことが出来るよう、積極的に研修に参加する機会を設けた。

<平成30年度の主な参加研修会>

平成30年度第1回主任・中堅・新任教員研修会	3名	指導保育教諭 保育教諭 2名
平成30年度福島市私立幼稚園協会研究部会・特別研修会	2名	保育教諭2名 ※ 年間全4回
全国認定こども園協会総会・研修会	1名	園長
全国認定こども園協会主催トップセミナー 2018	1名	園長
福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 教員研修大会	6名	園長・園長代理・指導 保育教諭 保育教諭3名
福島県保育協議会 特別研修会	1名	主幹保育教諭

※ その他園内研修（本園の全保育教諭対象）及び委託調理業者(株)メフォス栄養士・調理士との食育会議・研修は毎月実施した。



7、教職員のカウンセリング・健康管理体制、

(1) 教職員の相談体制（カウンセリング）

平成28年度よりカウンセラー2名委嘱しているが、平成30年度においても継続し、保育担当者（主幹保育教諭・指導保育教諭・保育教諭）の相談を毎月第2週・第4週の計2回一人ひとりに約30分の時間を割り振り実施した。

＜委嘱カウンセラー＞

玄永 牧子 氏（毎月第2週金曜日）	16：00～18：00
永澤 孝子 氏（毎月第4週金曜日）	16：00～18：00

(2) インフルエンザワクチン接種の定額補助（教職員福利厚生）

毎年園児を中心に大流行するインフルエンザについて、教職員への福利厚生として一人あたり3,000円の補助をした。大流行の兆しとして情報の入った平成30年11月に全教職員がインフルエンザワクチン接種をした。

カウンセリングと共に福利厚生として自己点検・評価において、一定の効果を得られたことが分かった。



8、園行事の実施時期・内容検討

(1) キティ・プレー・デー（発表会）の実施時期変更

認定こども園開園時に乳児の発達を踏まえ、キティ・プレー・デー（発表会）を1回（2月実施）とし、園行事予定を編成していたが、2月～3月の年度末は、季節の行事・卒園等園行事が過密であるため、園児への負担を少なくし、ゆとりを持って取り組むことができるように12月に時期を変更して実施した。

結果として第2学期の総まとめとしての発表会の位置づけとなった。卒園間近の2月末は年長児にとっても落ち着いた時間の中での生活とすることができた。

(2) ふれあい参観時の芋煮会実施の検討

芋煮会はこれまで保護者が中心となり実施してきたが、認定こども園へと移行したことにより、園を利用する保護者の生活形態の変化やニーズを

含め、これまでと同様の内容では対応できない現状にあったことから、参観日という形ではなく、園児のみ参加の「りんご狩り」（平成30年度は保護者自由参加）・「いも煮」は園児給食での提供とした。



9、ICTによるシステムの活用と担任業務軽減

保育業務総合支援システム「キッズビュー」機能の拡充

平成29年度に導入した保育業務総合支援システム「キッズビュー」（日本ソフトウェア株式会社）により、日々の出席確認等の確実な把握や月末の登降園集計作業が効率的に遂行できるようになり、事務業務の効率化と確実な管理が出来るようになった。平成30年度は年度当初から年度末まで1年をとおしてシステムを利用することができたことから、指導要録・学籍管理に加え、登園・降園管理、出欠確認等の確認業務もスムーズに遂行することができた。

また、毎月計算する「一時預かり保育」「延長保育」の利用料金に関しても自動計算となり、これまで手動でタイムカードを集計していたことと比較しても格段に効率が良くなった。



保育業務総合支援システムとは

園児登園・降園時の受付を2次元バーコードとタブレット端末を使用し、デジタル化された情報を一元管理することができ、各クラスの担当保育教諭が乳幼児から目を離すことなく、出席確認（出欠の有無・登降園時間の把握）ができるシステムである。事務業務においては、預かり保育の利用時間（月利用時間の集計）の集計・把握がデジタル化となり自動計算となり業務効率・正確性が著しく向上する。また、管理業務においても、学籍・名簿・園児の状況がデジタル化され、瞬時に園内にいる園児の人数を把握することができるシステムであり、すべての機能を手元のタブレット端末（事

務室においては管理 PC) にて作業・把握・確認ができる。

10、福島市社会福祉施設監査の対応

福島市が中核市となったことにより、本園開園以来初となる社会福祉施設関係監査が平成30年11月22日本園に入った。福島市役所健康福祉部地域福祉課法人監査係が中心となり書類監査を実施し、こども育成課職員も保育現場の環境を実地監査する内容であったが、大きな指摘事項・改善命令等はなく、無事に終了した。また、市町村側でも今後の保育指導の在り方等についてアドバイスをいただきたいという声もあり、より一層の連携を図るきっかけ作りとなる機会であった。

口頭助言として乳幼児が生活する保育室など施設の安全・衛生についてはすぐに見直しを図り、その後も常に点検・見直しをして備えることとした。また、保育教諭の研修体制の確立も含め次年度に活かしたい。

本監査は毎年実施されるため、諸帳簿・園児処遇関係・教職員処遇関係書類の确实なる整理をして備えることを全教職員にて確認する良い機会となった。



11、修繕工事の完了

園庭に設置している大型固定遊具点検修繕工事、幼児園舎遊戯室の外壁工事、園舎内電気配線・分電盤工事のほかに、幼児園舎と乳児園舎のネットワークの見直しを図る工事を実施した。

【園庭大型遊具(木製)の足場・滑り台部分点検・修繕工事】

木製の大型遊具においてはメーカーによる地面との接地面・滑り台部分の点検を実施し、ゆがみ・欠けが見られている滑り台部分の交換工事を実施した。



【遊戯室北側外壁修繕工事】

前年度に遊戯室北側外壁（壁画が模してある部分）においてひび割れから、躯体まで雨水が侵入する可能性があり、修繕が必要であるとの指摘があったことから、外壁の修繕工事を実施した。



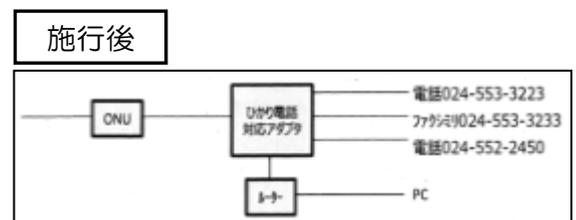
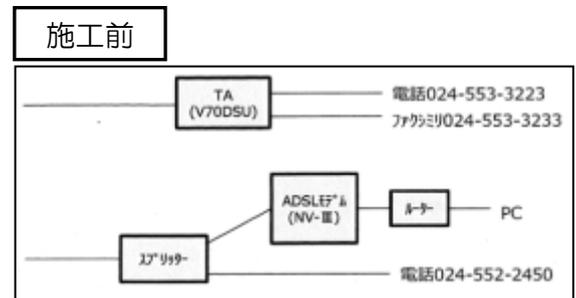
【幼稚園舎内電気配線・分電盤修繕工事】

旧附属幼稚園時代から使用している幼稚園舎は増築や、修繕のたびに分電盤周辺を都度増設・分配することで対応してきたことから、配線が複雑化し同時に老朽化も進んでおり、危険が伴うため、点検に合わせて修繕工事を実施した。



【園内ネットワーク機器の見直し・光回線の統合工事】

幼稚園当時からネットワーク回線関係の継ぎ足し工事や震災後の復旧工事等で複雑化しているネットワーク機器の整理をし、乳児園舎に引き込んだ光回線との統合を図ることで、園内のネットワーク回線の統一化を図る工事を実施した。



12. 園行事実施内容

<p style="font-size: 2em; color: red; text-align: center;">4 月</p>	<p>4/7(土) 入園式 (新入園児のみ)</p> <p>4/9(月) 第1学期始業式 (3~5歳児)</p> <p>4/21(土) ふれあい参観 (全園児)</p>	
<p style="font-size: 2em; color: green; text-align: center;">5 月</p>	<p>5/11(金) さつまいも植え (5歳児)</p>	
<p style="font-size: 2em; color: blue; text-align: center;">6 月</p>	<p>6/14(木) 茶道教室 (5歳児)</p> <p>※ 茶道教室は通年10回実施しています。</p>	
<p style="font-size: 2em; color: yellow; text-align: center;">7 月</p>	<p>7/6(金) 七夕会 (3~5歳児)</p> <p>7/7(土) なつまつり (全園児)</p> <p>7/19(木) 第1学期終業式 (3~5歳児)</p> <p>7/20(金) ~お泊り保育 (5歳児)</p>	
<p style="font-size: 2em; color: red; text-align: center;">8 月</p>	<p>8/24(金) 第2学期始業式 (3~5歳児)</p>	

<p>9 月</p>	<p>9/ 8(土) 親子遠足 (全園児)</p> <p>9/13(木) 消防署見学 (3~5歳児)</p>	 
----------------	--	--

<p>10 月</p>	<p>10/ 6(土) ファミリー・プレー・デー (全園児)</p> <p>10/12(金) いもほり (満3歳~5歳児)</p> <p>10/18(木) 園外保育 (5歳児)</p> <p>10/30(火) カレー作り (5歳児)</p>	
<p>11 月</p>	<p>11/14(木) 英語で遊ぼう (5歳児)</p> <p>※ 英語教室は通年10回実施しています。</p> <p>11/20(土) りんご狩り (全園児)</p>	
<p>12 月</p>	<p>12/15(土) キディ・プレー・デー (全園児)</p> <p>12/21(金) 第2学期終業式 (3~5歳児)</p>	
<p>1 月</p>	<p>1/11(金) 第3学期始業式 (3~5歳児)</p> <p>1/18(金) もちつき会 (3~5歳児)</p>	

<p style="font-size: 2em; color: #90EE90; text-align: center;">2 月</p>	<p>2/ 1(金) 節分 (全園児) 2/16(土) ふれあい参観 (全園児)</p>	
<p style="font-size: 2em; color: #ADD8E6; text-align: center;">3 月</p>	<p>3/ 1(金) ひなまつり会 (3~5歳児) 3/ 5(火) お別れ会 (3~5歳児) 3/ 9(土) 卒園式 (5歳児) 3/15(金) 第3学期終業式 (3~4歳児)</p>	